

消化器・一般外科

1. 目的と特徴

豊かな人間性、幅広い見識、社会に貢献する使命感と責任を持ち、外科学、消化器外科学の診断治療に関する基礎的な知識と技術を習得し、それらの知識、技術を実際の臨床に応用できる能力をもつ医師の養成を目指す。結果として、外科専門医、消化器外科専門医取得を可能とする。

2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長	板橋道朗（炎症性腸疾患外科分野） 細田 桂（上部消化管外科分野） 山口茂樹（下部消化管外科分野） 本田五郎（肝胆膵外科分野）
准教授	有泉俊一、小川真平
講師	番場嘉子、隈本力

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学病院消化器病センター

研修協力施設：独立行政法人地域医療機能推進機構山梨病院、東京都立豊島病院、東京都立多摩南部地域病院、東京都立荏原病院、八王子消化器病院、東京都立多摩北部医療センター、赤羽中央総合病院、尾原病院、上福岡総合病院、至誠会第二病院、筑波胃腸病院、東京城東病院、西横浜国際総合病院、府中医王病院、防府消化器病センター 防府胃腸病院、医療法人社団常仁会 牛久愛和病院、小張総合病院、大分市医師会立アルメイダ病院、社会医療法人三栄会中央林間病院、TMGあさか医療センター、医療法人社団けいせい会 東京北部病院、宇都宮記念病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

外科・消化器外科に必要な基礎知識、技術を修得し、患者さんを思いやる暖かな心をも身につける。

B：行動目標

- 1) 外科診療に必要な基礎知識を修得し、臨床に応用する。
- 2) 外科診療に必要な検査・処置・麻酔に習熟し、臨床に応用する。
- 3) メディカルスタッフと協力し患者の問題点を解決する。
- 4) 患者、家族の訴えを真摯に聞き、患者の苦痛に思いやりを示す。
- 5) 医療安全管理の基本を説明し、実践する。
- 6) 病態を把握し、無駄のない検査を実施する。
- 7) 治療方針について上級医、指導医と相談する。
- 8) カンファレンスに参加して、討論する。
- 9) 学会に参加し、発表する。発表内容を論文として投稿する。

- 10) 切除標本の整理、肉眼所見を正確に記載する。
- 11) 医療記録(診療録、手術記録、病歴要約)、診断書、報告書を記載し、提出する。
- 12) 低中難度の手術を施行する。高難度の手術の助手をする(全体で450例以上)。
- 13) 外科専門医を取得し、消化器外科専門医の申請資格を得る。
- 14) 上記すべてに対して下級後期臨床研修医を指導する。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略（図参照）

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

週間予定

		午前・午後	
月	チーム回診	病棟・検査・手術	内科外科医局会 診療グループカンファレンス
火	チーム回診	病棟・検査・手術	抄読会、手術症例報告会、MMカンファレンス
水	チーム回診	病棟・検査・手術	
木	チーム回診	病棟・検査・手術	手術症例検討会
金	チーム回診	病棟・検査・手術	
土	チーム回診	病棟・検査・手術	プロジェクト会議、外科病棟会議

D：評価

診療グループのチームマネージャー、研究グループのグループリーダー、診断部門の指導医、治療支援グループのグループ長あるいはメディカルスタッフから逐次形成的評価を受ける。手術に関しては、評価シートを提出し、症例数の調整、内容のフィードバックを受ける。病歴要約、返信、手術所見が随時チェックされる。

5. 後期臨床研修終了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学病院消化器病センター外科に就職を希望するものは、教授・基幹分野長と相談する。助教として採用可能。

6. 学位

研究論文が journal に掲載された後、教授・基幹分野長との協議のもと、学位の申請が可能である。臨床大学院入学者は4年間で研究を終え、研究論文を投稿し学位を取得できる。

7. 専門医資格

期間中に外科専門医資格を取得する。消化器外科専門医、消化器内視鏡専門医、超音波専門医、消化器専門医、大腸肛門病専門医、肝臓専門医、内視鏡外科学会技術認定医資格などの取得が可能である。

8. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学消化器病センター外科

医局長 番場嘉子

TEL：03-3353-8111（内線：25116）

FAX：03-5269-7507

東京女子医科大学消化器病センターホームページ、インスタグラムもご参照下さい。

<https://www.twmu-ige.jp/surgery/>

https://www.instagram.com/twmu_surgery/